

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【園芸作物、北海道農政事務所】

北海道 美幌地方広域農業協同組合連合会（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R7～R9）

- 美幌町内2カ所の集出荷貯蔵施設を再編し、たまねぎ・ばれいしょの集出荷貯蔵機能を稲美地区に集約する。
- 機能集約による人員や運搬コストの削減、物流効率の向上といった効果や、冷蔵庫・CA貯蔵庫整備によるたまねぎ・ばれいしょの出荷平準化が見込まれ、販売期間の延長による販売平均単価の底上げ等といった効果が期待できる。

現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- 既存施設は著しく老朽化しているうえ、出荷の平準化や販売期間の延長、品質保持のために必要な冷蔵設備が不十分な状況にある。
- 集出荷貯蔵施設が美幌町内の2か所に分散しており、施設運営の非効率性が課題となっている。
- 貯蔵庫に収容したたまねぎを、休眠期間中に施設間移動する必要があり、たまねぎの品質が劣化する恐れがある。

【再編集約等の内容】

- 美幌町内2カ所の集出荷貯蔵施設を再編し、たまねぎ・ばれいしょの集出荷貯蔵機能を稲美地区に集約する。美里地区施設群は集約後すべて廃止する。
- 新たに冷蔵庫、CA貯蔵庫を整備する。

機能集約



美里地区施設群
→（集約後すべて廃止）

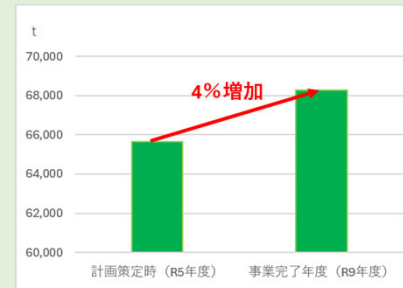
稲美地区施設群



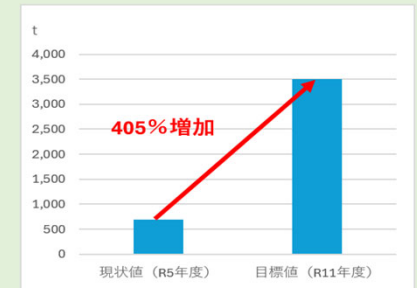
整備後の稲美地区施設群

再編集約・合理化等で期待される効果

- 冷蔵庫整備により、たまねぎ・ばれいしょの出荷平準化が見込まれ、価格低迷期の販売量を抑え、販売平均単価を底上げすることが見込める。
 - たまねぎに関しては、CA貯蔵庫で保存する事で、販売期間延長ができ、これまでの国産たまねぎの端境期だった時期にも出荷を可能にすることで有利販売につなげる。
 - 選別敷地内に貯蔵施設を整備することで、選別作業時の移動が不要となり、選別効率の向上および施設利用率の改善が図られる。
- さらに、本事業に取り組むことで、貯蔵庫収容後の移動が不要となり、作物の休眠期間中の移動がなくなり、課題であった移動中の品質劣化が抑制され、長期輸送に適した高品質なたまねぎの出荷が可能となるため、出荷量4%増加、輸出出荷量405%増加を目指す。



【たまねぎの出荷量の推移(t)】



【たまねぎの輸出出荷量の推移(t)】

他産地へのメッセージ

- 運営や物流の効率化はもちろんですが、本施設の整備が農業生産の持続性や収益性向上に寄与するものとなるよう、施設整備計画を策定しました。
- 事業採択に関わらず、施設の在り方について検討を行い、各産地との合意形成を計画的に進めていくことが重要かと思います。